Green Brave

#52 埼玉 GB GR Supra GT4 EVO2

2025年11月15日（土）～16日（日）

BRIDGESTONE SuperTaikyu JapaneseEnduranceRace ENEOS

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2025 Empowered by BRIDGESTONE 第7戦

S耐 FINAL 大感謝祭 富士スピードウェイ（静岡県小山町）

■4位フィニッシュで今シーズンを締めくくる■

決勝結果（ST-Zクラス）
#52 埼玉 GB GR Supra GT4 EVO2
松井宏太／吉田広樹／服部尚貴／野中誠太
決勝4位（127周、4時間01分27秒400）
予選3位（合算タイム：3分35秒545）

2025年のS耐シーズンもいよいよファイナル。Green Braveはすでに3連覇を決めていますが、全戦表彰台を合言葉に最終戦に出場しました。予選日（土曜日）の天候は晴れ。Aドライバーの予選は13時20分から行われ、前戦から参加の松井選手がコースイン。周回を重ねるたびにタイムを伸ばし、5周目に1分48秒204をマーク。4位につけました。Bドライバーの予選は14時20分から行われ、吉田選手がコースイン。アタック中に赤旗が提示され、残り6分ほどで再開されます。吉田選手は8周目に1分47秒341をマークし、6位につけますが、上位車両のベストラップが抹消されたため、5位で予選を終了。両ドライバーの合算タイムにより、予選3位を獲得しました。服部選手と野中選手は決勝を想定した確認走行を実施。ドライバーは異口同音に路面の変化によるグリップ不足を訴えており、さまざまなレースが富士で行われていることが影響しているようです。

決勝日（日曜日）の天候も晴れ。チームは吉田選手をスタートドライバーに起用する4スティント作戦を立案。野中選手、服部選手、松井選手の順につなぎます。13時15分、4時間の決勝レースがスタート。予選1位の#22ポルシェと同2位の#26日産Zがヘアピンで接触しており、吉田選手は先頭でホームストレートに戻ってきます。吉田選手はトップをキープして周回を重ねますが、日産Z勢を引き離す速さはなく、12周目に#25日産Z、16周目に#20日産Zに抜かれ、3位に後退。32周目と44周目にはこれら2台のピットインにより、再びトップに立ちます。スタートから約1時間25分を経過した46周目の終わりに吉田選手がピットイン。野中選手に交代し、作戦通り給油のみのタイヤ無交換でピットアウトします。

コースに復帰した野中選手の順位は2位。翌周、ピットアウトしてきたばかりの#21AMGを抜いてトップに立つと、後方とのリードを広げていきます。スタートから2時間が経過した63周終了時点では、2位の#5GR Supraに約39秒差をつけてトップを独走。73周目の終わりに#5GR Supraがピットに入ったため、リードはさらに広がります。2回導入されたFCY（フルコースイエロー）でのアドバンテージこそ得られなかったものの、野中選手は摩耗したタイヤをマネージメントしながら1時間半弱を走破。91周目の終わりにピットに入ります。服部選手に交代し、給油とタイヤ交換を終えてピットアウト。しかし、ドライバー交代にやや時間がかかり、さらにピットロード出口でスイッチを押し間違えるミスがあり、痛恨のエンジンストップ。再始動に時間を要し、大きくロスします。服部選手はトップですが、レース時間が残り1時間少々となっているため、93周の終わりにピットイン。給油のみで松井選手に交代し、Aドライバーの走行義務を消化していくとともに、1時間後のチェッカーを目指します。コースに復帰した松井選手の順位は6位。上位のピットインにより、95周目に5位、96周目には4位に浮上し、全戦表彰台を目指して#21メルセデスAMGを追います。#21メルセデスAMGは最後のピットインを終えており、その差は20秒ほど。松井選手は薄暗く、走りづらいコンディションの中、良好なペースで走行します。16時15分にチェッカーが振られ、松井選手は4位チェッカー。全戦表彰台は達成できませんでしたが、GR Supra勢最上位を獲得し、Green Braveの総合力の高さをアピールしました。

©2025 Saitama Toyopet co.,Ltd All Rights Reserved.

■DRIVERS VOICE

松井宏太選手

最後まで何が起こるかわからないので、プッシュして走ることができました。気温も路面温度も下がってきて、クルマの調子はどんどん良くなっていました。反省点はあるのですが、良いスティントになったと思います。夜間の走行についても、富士の 24 時間を経験しているので、目も慣れていました。スムーズに走れて正直ほっとしています。前戦でチャンピオンを取り、肩の荷が下りていたのですが、その流れで私が最後のスティントを担当した部分はあったと思います。良い経験になりました。

吉田広樹選手

ドライバーの速さの部分でミスがあったわけではないので、そこは問題ありませんでした。ただ、FCY をとれなかったことがうまくいかなかった原因と思っていて、自分たちの反省点が浮き彫りになってしまったと思います。1 周目にトップに立てたのは、後ろで状況を見ていたらうまくクリアできたので、そこまでは良かったです。ライバルのクルマは速いと思っていたので、離されると思っていたのですが、意外と耐えることができたので、自分のスティントに関してはうまく立ち回れたと思います。

服部尚貴選手

ピットのタイミングをうまくとれなかったのと、自分に交代した時に間違えてキルスイッチを押してしまいました。完全停止しないとエンジンが復帰しないので、時間がかかってしまい、私のせいで表彰台を逃した感じです。いろいろな流れも含めて、今回はうまくいかなかったのですが、前戦でチャンピオンを決めておいて良かったというのが今の思いです。プロドライバーが松井選手を追いかけていましたが、マージンを保ったままチェッカーを受けることができたのは良かったと思います。

野中誠太選手

展開的にはいい流れにもっていくことができましたが、もったいないミスが 2、3 回ありました。それでも 4 位なので、表彰台はいけたと思います。吉田選手がマックス走り、タイヤ無交換でぼくがマックス走りました。同じタイヤで 100 周近く走っているので本当にきつかったです。タイヤやピットインのタイミングが違うので、まわりの状況がわかりませんでしたが、自分の中でベストを尽くせたと思います。今回は残念でしたが、それ以外は良いレースが多かったシーズンだと思います。

ST-Z クラス　決勝結果

順位	チーム	周回数
1 位	#34 TECHNO FIRST FUNDINNO R8 LMS GT4（アウディ R8 LMS GT4）	128 周
2 位	#22 EBI GROUP Cayman GT4 RS CS（ポルシェ ケイマン GT4 RS CS）	127 周
3 位	#21 Hitotsuyama Mercedes-AMG GT4（メルセデス AMG GT4）	127 周
4 位	**#52 埼玉 GB GR Supra GT4 EVO2（トヨタ GR Supra GT4 EVO2）**	**127 周**
5 位	#26 raffinee 日産メカニックチャレンジ Z NISMO GT4（日産 Z NISMO GT4）	127 周
6 位	#885 シェイドレーシング GR Supra GT4 EVO2（トヨタ GR Supra GT4 EVO2）	126 周

出走 11 台 トップ 6 まで

ST-Z クラス　ポイントランキング

順位	車番	チーム	ポイント
1 位	**52**	**埼玉 Green Brave**	**146**
2 位	26	TEAM ZEROONE	96
3 位	885	SHADE RACING	93.5
4 位	25	TEAM ZEROONE	78.5
5 位	22	PORSCHE TEAM EBI	76.5
6 位	34	TECHNO FIRST	62

上位 6 位まで

Green Brave PARTNERS

赤城車体工業株式会社

株式会社アルシェ

株式会社エイテック

株式会社 FM NACK5

株式会社岡崎巧芸

株式会社カーグラス・JP

埼群スリーボンド株式会社

株式会社三和広告社

JU 埼玉オートオークション株式会社

株式会社西武ライオンズ

ティーズ・ワークス

株式会社デンソーソリューション

東京キリンビバレッジサービス株式会社

トヨタホーム東京株式会社

トヨタモビリティパーツ株式会社 埼玉支社

富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社

有限会社 MY CARS

マックメカニクスツールズ株式会社

丸和工業株式会社

Mechanix Wear LLC

株式会社リビコー

©2025 Saitama Toyopet co.,Ltd All Rights Reserved.